

## その子らしさを大切にする指導

————— チャボの世話活動を通して —————

つき組 森 山 純 子

## Ⅰ はじめに

昨年度から「その子らしさを大切にする保育」のあり方を求めてきている。今年度は、チャボのお世話活動を通して、ひとりひとりの子ども達の主体性にもとづく、その子らしい世話のしかたをみつめていきたいと思った。

ここで大切にしていきたいことは、生きている物の鼓動を感じとりながら、真に生き物と触れ合い、かわいがる情感を育てることをねらいとして、その子が生き物に対して、どんなことに心を動かされ、どうお世話活動に向っていかかということ、保育者はしっかりと把握したり、見届けたりしてやることである。子ども達が、前のつき組から教わったことを子ども自身が獲得し、そのことを自分の経験として生かしながら活動をつくっていくことを願って、子どもたちの世話のしかたや当番活動を任せてみることから出発した。

以下、子ども達の実際の歩みと活動の姿を通して考察したことを述べていきたい。

## Ⅱ 考 察

1. つき組（昨年度年長児）の経験や活動に心をとめさせる。
2. つきさんから教えてもらう（引き継ぎ活動）に期待をもって向わせる。
3. 必要感を大切にしたり、子ども達の気持が熟すのを待ったりする当番活動
4. 既有経験を生かしていく姿を認め、支える。
5. 生き物の生命を感じ、とらえさせる。
6. その子らしいチャボの世話活動のしかたを支える。